団体（東久留米市）

東久留米市八幡町 3-9-3

東久留米出荷組合

１：主な販売品目

農産物名	希望取引時期
ホウレンソウ	9 月下旬 ～ 3 月中旬
ダイコン	5 月 ～ 6 月、10 月中旬 ～ 2 月
スイートコーン	6 月 ～ 8 月

２：販売場所

市場出荷（東京多摩青果本店・北部支店）

３：東久留米と農業のあゆみ

（1）養蚕、麦

東久留米はかつて、養蚕と麦の栽培が盛んでした。特に養蚕は明治の中ごろから生産量が増え、明治 30 年代には東久留米の農家 600 戸中、500 戸が養蚕を営んでいたそうです。養蚕にとって欠かせないのが、蚕のえさとなる桑の生産ですが、かつては広大な桑畑が広がっていたそうです。やがて時代変わるにつれて、生産される作物も変化し、50 年ほど前からはダイコンが東久留米の主要な農産物になっていきます。

（2）ダイコンとホウレンソウの産地

東久留米のダイコンとホウレンソウ

東久留米では、ダイコンとホウレンソウを交互に生産し、「連作障害」を起こさない様にしてきました。同じ野菜を、同じ場所で作り続けると、生育が極端に悪くなったり枯れたりしてしまいます。これを「連作障害」といいます。この障害を出さないためにダイコンとホウレンソウの輪作は理想的な組み合わせでした。春と冬にはダイコン、夏と冬にはホウレンソウといったように生産され、この二つの野菜は東久留米の農業の発展に大いに貢献し、東久留米の主要な農産物として長い間生産されてきましたが、最近ではダイコンの出荷量が減り、夏は直売所で売れる様々な野菜が多く作られるようになってきました。

４：東久留米出荷組合

（１）出荷組合の概要

組合員のホウレンソウ畑

東久留米出荷組合は、昭和 39 年に野菜の生産振興、技術向上を目的として設立された「東久留米市営農振興会」を母体として、昭和 63 年ごろに青果市場への共同出荷を促進するために設立されました。組合では資材の共同購入の他、定期的に出荷販売会議を行い、多摩青果市場担当者や JA の事務局と一緒に出荷計画や作付けの状況などを話し合っています。

（２）今までも、これからも…

組合員は、「東京都エコ農産物認証制度」の前身ともいえる「東京都エコファーマー認定制度」から参加し、これまでも減農薬、減化学肥料に取り組んで来ました。もちろん出荷する農産物に付加価値をつけたいという意味合いもありますが、私たちは、消費者の皆さんに安全で美味しい野菜を食べてもらいたいという事を一番に考えています。今後も、各関係機関と協力を取りながら、それぞれの組合員が努力を続け、皆様に東久留米から美味しい食材をお届けします。

５：連絡先

（１）電話番号　042-475-0027（JA 東京みらい東久留米支店）

ハウス施設でのダイコン栽培

出荷間近のホウレンソウ